



スターツハーゲン・ハビリテーションセンター（スウェーデン）



No.29 (平成25年)

社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院・みどり愛育園
西多摩療育支援センター
後援会

— 連絡先 —

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話042-561-2521(代表)
東京小児療育病院

Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のための誠実に
積極的に取り組む障害児者と
その家族を支援します

- 1頁 北欧障害児療育視察研修
- 2頁 ベツレヘムの星(オオアマナ)
日本重症心身障害福祉協会認定
重症心身障害看護士の認定を受けて
設立50周年記念樹植樹式
- 3頁 オリックス財団より福祉車両の寄贈
- 4頁 新人看護師紹介 西多摩日より
- 5頁 勤続三十五年を振り返って 永年勤続者表彰式
- 6頁 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会に参加して
全国肢体不自由児施設 施設長・事務長会議の開催
- 7頁 後援会だより オルフエの会 ハサー案内
平成25年度決算報告
- 8頁 ご寄付者名簿

北欧障害児療育視察研修

西多摩療育支援センター

センター長 鶴岡 広

平成二十六年三月八日から十六日まで、後援会のご支援を受け、スウェーデンとフィンランドに障害児療育視察研修旅行に行きました。メンバーは、院長を含めた医師・看護部門の四人と事務部門の二人です。

研修最終日は雪に会いましたが、今年の北欧は暖冬で、街の公園には春を告げる白い待雪草が咲いていました。建物はどれもオシャレで、色も形も個性的なのに、なぜか回りに馴染んでいました。

北欧の福祉では、個人の尊厳が重んじられており、それがあらゆる福祉の基本になっていました。

入所施設の一室にお邪魔すると、そこはとても素敵なインテリアで、飾られた部屋で、重度障害児者の施設の中とは思えません。また、作業所のリサイクルショップは、障害者自身が運営・管理していました。彼らは、誇りを持って自分の役割・仕事を説明してくれました。

北欧では、どのような人でも仕事をする権利があり、社会貢献に参加できるように工夫していると感じられました。

「障害者は、いたわりましょう」と日本では教えます。しかし、いたわると言った時点で、そこには強者・弱者の関係で障害者を見ている自分があることがわかります。障害を持つ人に私たちは励まされ、救われることもよくあります。お互いがギブ&テイク、障害を持つ人に手を貸すのは、友人が困っているときに手を貸し、自分が困っていれば友人が助けてくれるのと同じことです。全ての人が尊重し合って生きる社会では、健常者の一方的な価値観で決めるのではなく、お互いを認め合うことにあります。

北欧研修を通して、障害の有無に関わらない人と人との付き合い方の本質に触れることができました。また、我が国の福祉や日頃の私たちの対応の良いところも気付くことができました。今後の施設運営に役立てて行きたいと思えます。皆様のご支援、ご鞭撻よろしくお願ひします。



重度障害児童施設の居室 フィンランド

ベツレヘムの星(オオアマナ)

理事長 中里 厚

年ごとに不順な気候となるようですが、地球の温暖化の影響でしょうか？

今年、当施設は創設五十周年を迎えました。この間多くの皆さま方のご協力とご支援を戴いて参りました。改めて感謝と御礼を申し上げます。

来年(平成二十七年二月二十七日)には五十周年の記念の式典を予定しております。

もと農家で、たくさんのお花を持っていた高齢のご夫妻の在宅訪問診療に伺った折、庭先に白い可憐な花が咲いていました。「この花は？」と九十歳になる耳の遠い源治おじいさんに伺うと「最近花の名前がとんと出てこないんだよ」というお返事でした。そばから奥さんがこれは「アマナですよ」といい、少し球根を分けてくれました。帰宅後早速日当たりのよい木瓜の木の根元に植えて、花の本を調べてみました。ユリ科の植物で「オーニソガラム」別名「オオアマナ(大甘菜)」、欧米の別名は「ベツレヘムの星」と呼ばれているそうです。白い花弁の裏側は緑色の白い筋のある花が、パラソルを拡げたように星の形に咲きます。夏には刈れず、球根が残ります。

その後すっかり忘れていたのですが、翌年の三月いつの間にか我が家の庭に突然白い花が咲き感激しました。(写真)

源治さんは昔、野菜作りが中心で戦前

は作物を大八車に載せて、新宿の野菜市場まで十km引いて行ったそうです。仕事の傍ら野草集めが趣味で奥多摩や各地で野草を採取しては、自宅の庭に植えたそうです。冬には野草を霜から守るために、伐採した枯れ枝を庭一面にしきつめていました。春になるといつせいに花が咲き始めます。源治さん宅に往診する時はいつも玄関から入らず、庭の方から訪問しました。診察もそこそこに、様々な野草をカメラにおさめました。

「杜鵑(ほととぎす)」「座禪草」「鷲草」「鉄線」「紫蘭」「釣鐘草」「屋久島ケイビラン」など、その他名前の分からない野草が沢山ありました。有る時往診に行く部屋に居るはずの源治さんが居ません。庭で奥さんが大声で「早く上がってらっしゃい」と叫んでいます。小さな池の中で源治さんは「水ばしょ」や「水ひなげし」の世話で、まわりの薬草を採っているところでしたが、泥にはまって上がれなくなり2人がかりでようやく引き上げました。



ベツレヘムの星

NHKの写真班が二年前から良く撮影に来ていたそうです。源治さんは「二十一世紀に残したい人」という番組で放映されたそうです。

その後源治さんも奥さんも亡くなりましたが、毎年三月になると必ずアマナが顔を出して白い可憐な花を咲かせ季節の挨拶をしてくれます。

「ベツレヘムの星」というのは御存じのようにパレスチナ・ベツレヘムの地でイエスキリスト誕生の際ひととき大きく輝いたという伝説の星です。

クリスマスツリーのてっぺんに飾られている星です。

木や花は成長に時間もかかり、またその間手をかければかける程、美しい花を咲かせたりおいしい果実をつけてくれます。

私達の施設が毎日行っている医療や訓練は時間も手間も驚くほどかかります。しかし子供たちが物事を達成した時の笑顔に接すると、あのアマナの花が咲いた時と同じ感動をおぼえます。

私達の施設が「ベツレヘムの星」になるよう、職員一同これからも頑張つてまいりますので皆様方のご支援を宜しくお願い申し上げます。

日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師の認定 を受けて

東1病棟 看護師 野内小百合

今回、日本重症心身障害福祉協会認定、重症心身障害看護師認定審査に合格することができ、認定証を頂きました。認定

までの二年間に、重症心身障害看護概論、重症心身障害の社会背景・重症児の医療と看護などについて講義を受講してきました。受講内容としては、「重症児施設の定義や歴史」、「重症児の病態・症状」、「発作の観察・対応」、「重症児に起こりやすい消化器合併症の病態と治療」、「心理学療法の方法・手技」、「排痰の姿勢・工夫」などで、さまざまな専門知識が学べる機会でありました。

実習では、超・準重症児施設実習や訪問看護ステーションにおける、ケアの実際や他施設での安全対策・環境整備などの工夫を学ぶことができました。さらに、毎日のケアで工夫している点などについて、他施設の受講生たちと情報交換する機会も持つことができました。

認定された重症心身障害看護師には、次の役割があります。

- (一) 重症心身障害児者及び家族に対し、熟練した看護技術及び知識を用いて専門性・個別性の高い看護を実践する。
- (二) 看護実践を通して、看護・療育スタッフに対し、教育的支援を行う。
- (三) 重症心身障害児者を取り巻く今日的課題に積極的に取り組む。

これからは、認定された重症心身障害看護師としての誇りを持ち、研修で学び得たことを日々の看護ケアへ還元します。併せて、後輩の育成や看護実践モデルとして魅力のある人間になれるように努力していきます。引き続きセミナーや研修などに積極的に参加します。

設立50周年記念樹

植樹式

平成二十六年二月二十七日、東京小児療育病院において設立五十周年を迎えたことを記念して、記念樹植樹式が執り行われました。

社会福祉法人鶴風会後援会より記念樹として、ベニシダレザクラとユリノキをご寄贈いただきました。

これまで鶴風会を支えてくださったさまざまな方々への感謝の意と、私たち自身が、次の五十年も、発展し続けようとする誓いを込めた記念樹に、中里理事長・五島会長・松尾常務理事・椎木院長が土かけを行い、続いて幹部職員・今年採用の看護師や事務職員等、参加者全員で土かけを行いました。

春ごとに咲き誇る美しい花と、何年か後には、東京小児療育病院のシンボルツリーとして美しい樹形を見せてくれることが、楽しみです。

(法人事務局次長 佐藤 朋己)



植樹式(五島会長・中里理事長)

社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院

50周年記念事業募金のお願い

- | | |
|----------|---|
| 1 募金の目的 | 1、記念式典・祝賀会 2、記念講演
3、記念誌発行 4、その他の記念事業 |
| 2 募金の対象者 | 職員及び当法人の事業活動への賛同者 |
| 3 募金の目標額 | 2,000万円 |
| 4 募金の金額 | 一口5千円(できれば二口以上でお願いします。) |
| 5 募金の期間 | 平成24年7月1日～平成26年9月30日 |
| 6 申込方法等 | |

申し込みをなさる方、又募金に関するお問い合わせについては左記にご連絡をお願いいたします。

東京小児療育病院内

社会福祉法人鶴風会後援会事務局
〒208-0011 東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042-561-2521

東京小児療育病院開院50周年 西多摩療育支援センター開設10周年

記念式典のお知らせ

下記において執り行います。

日程：平成27年2月27日(金)

場所：新宿京王プラザホテル

法人事務局

042-561-2521

オリックス財団より

福祉車両の寄贈

公益財団法人オリックス財団(東京都港区、代表理事宮内義彦氏)より、平成二十六年三月二十五日(火)東京小児療育病院・みどり愛育園へ福祉車両1台が寄贈されました。車両はワゴンタイプで後部にはリフトを装備し、大型のベッドタイプの車椅子でも乗降できます。

これまでオリックスグループでは、企業活動だけではカバーしきれない社会福祉、将来を担う子ども・青少年の支援、音楽・文化芸術などの分野でも貢献できることがあると考えられ、二〇〇六年四月「オリックス社会貢献基金」を設立しました。

二〇一〇年十二月には、「公益財団法人オリックス財団」として内閣総理大臣から公益認定を受け、公益財団法人に支援活動を移行して、真に「豊かな社会」の実現に寄与する支援活動を継続しております。

今回の福祉車両寄贈につきましては、全国肢体不自由児運営協議会を通じて、当施設をご推薦頂きました。

寄贈当日には、オリックス財団の増田事務局長代理が当施設にお越しになり、贈呈書が椎木院長へ手渡されました。また車両の納車にはお立ち会いも頂きました。



リフト付き福祉車両 (日産キャラバン)



オリックス増田事務局長代理より贈呈書

オリックス財団ならびに全国肢体不自由児運営協議会へ感謝申しあげます。

(石井)

新人看護師紹介

東二病棟看護師 石田 耕平

うらかな春は瞬く間に過ぎ行き、あ
ただしく日々を過ごしているこの頃、
二〇一四年四月に東京小児療育病院に入
職した私たち新人看護師は、もうすぐ初
めての夏を迎えます。

私が重症心身障害児者の看護に携わり
たいと思うようになったのは、武蔵野大
学の実習で当院を訪れたことがきっかけ
でした。それまで私は、看護学生であり
ながら、看護に苦手意識を抱いていまし
た。実習で実際に患者さんと関わらせて
頂いても、日々のケアや計画、記録に追
われてしまい、思うように患者さんと向
き合うことが出来なかつたからです。

「もつと患者さんと接点を持ちたい。じつ
くりと関わっていききたい」と考えてい
ても、一般病棟では、それを実現させるこ
とは出来ませんでした。しかし、小児領
域の実習で当院を訪れた際、自分がずつ
とやりたかった、深い関わりのある看護
が行われていることを知り、それを体験
することが出来ました。利用者さんとの、
それまで経験したことのない新しい触れ
合いを経て、療育という看護の形や施設
で生活をされている利用者さんに興味を
持つようになりました。

国家試験に合格し、看護師として働き
始めて三か月が経ちました。先輩や上司
から厳しくも温かな指導を受け、また利

用者さんとの関わりを通して、私たちは
一歩ずつ成長しています。時には自分の
無力さに落ち込むこともありましたが、利
用者さんの前に立つと、その気持ちが晴
れていくことがあります。きつとそれは、
看護を受ける、提供するということだけ
ではない関係が築けてきているからだと思
っています。まだまだ未熟な私達ではあり
ますが、ここで生活されている利用者さ
んをはじめ、そのご家族、地域の方々、
そして職場の先輩方から様々なことを学
び、より良い看護を目指し、これからも
学びを深めていこうと思います。



辞令交付式

西多摩だより センター祭を盛大に行いました

生活支援部長 柳瀬 達夫



ボランティアさんによる食品販売

センター祭は六月一日(日)に盛大に行
われました。当日は六月にしては少々暑
い日だったにもかかわらず、イベントの
出演者などを含めてボランティアさんが
約百名、利用者のご家族や地域のお客様
が約三百名と、センターに関わる様々
な人たちが集まる機会となりました。

昨年の「みどり祭」に引き続き、東北
で被災したこともたちにピザを食べても
らって元気になってもらおうというコン
セプトで立ち上げられた「ぬーばプロジ
ェクト」のボランティアさんに、センター
祭にも参加していただきました。「ぬー
ばプロジェクト」のスポンサーのひとつ
にもなっていたのが高砂熱学工業で、実
は西多摩療育支援センターを建築したと

きに空調関係全般を請け負っていたのが
この会社でした。昨年の「みどり祭」の
ときにボランティアとして高砂熱学工業
の関係者が参加しており、その縁もあつ
て西多摩療育支援センターでもピザの提
供をしていただけのことになったのです。

センター祭当日の暑い中、「ぬーばプ
ロジェクト」の皆さんは総勢十二名で参
加して、本格的なピザを提供してくださ
いました。西多摩療育支援センターの利
用者や家族、地域の皆さん、そしてボラ
ンティアさんと多くの方々に、「ぬーば
プロジェクト」のピザを食べていただき
と思います。「ぬーばプロジェクト」の
皆様、本当にありがとうございます。



～「ぬーばプロジェクト」の皆さん～

勤続三十五周年を振り返って

西一病棟 生活支援係長 関口 宏

昭和五十三年四月

東京小児療育病院の採用試験を終えた数週間後、健康診断のために再度、病院に行き、当時の一階・園庭近くの待合室で順番を待っていた時でした。かすかに子守唄が聞こえてきたような気がして、ふと園庭を見ると看護師さん（当時は看護婦さんでした）が二、三歳くらいの男の子を抱っこしながら箱ブランコに乗って子守唄を歌っていました。

この年の春は曇りがちの日が多かったのですが、その日は穏やかな晴天だったことを覚えています。ゆったりとした子守唄、箱ブランコが揺れるたびに小さく響く金属音。子守唄と箱ブランコの金属音が同じリズムでとても穏やかでした。空の青さと園庭の芝生の緑の中で見た風景は優しく、信頼感と不思議な豊かさに溢れていて、それはそれは素晴らしいものでした。

平成二十六年六月

永年勤続表彰式があり、お祝いをしていただきました。

育務部所属、児童指導員として採用されてからあつという間に三十五年が経っていました。振り返ってみますと、本当にいろいろなことがありました。当時の育務室はすでに修繕が必要な状態にあり、床には穴が開いていて、手を近づけると

床下から上がってくる風を感じることはできませんでした。

さて、新人として病棟で研修をしたあと、当時の学童病棟で何とか職員らしく働きました。ところが、初めての夜勤（準夜深夜勤務でした）でのこと。

緊張のあまり、休憩時間になっても仮眠することが出来ないでいたのです。そして、休憩時間が終わりに近づいた時、急に睡魔が襲ってきて、あろうことかそのまま爆睡してしまい、大寝坊！その日、夜勤を組んでいたベテラン職員のIさんいわく、「関口さんを起こそうとしたんですけどあまりに気持ちよさそう



昭和五十四年当時育務部（現在 生活支援科）職員の日帰り旅行（本人右下）

に寝ていたものですから、そのまま寝かせていたんですよ」と。本当に恥ずかしい限りです。そんなふうになんかの失敗をしてきましたが、皆さんはいつも暖かくご指導してくださり、困難な時には幾度となく助けてくださいました。

三十五年がとても速く感じているのは、職員の方や利用者の方々と一緒に過ごさせていただいたからにほかなりません。利用者の方々の笑顔や一つ一つの言葉、父母の方々からお話ししていただいた数えきれないほどの深い思いは自分の大切な宝物となっています。三十五年前のあの日、園庭で見た優しい風景は、もしかしたら東京小児療育病院・みどり愛育園の本質に近いものがあるのかな。これまで暖かく支えてくださったこと、心より感謝申し上げます。

職員表彰 永年勤続者

勤続三十五年表彰

- 臨床心理士 染谷 昌美
- 生活支援員 小谷 義広
- 生活支援員 関口 宏
- 生活支援員 田中 哲

勤続三十年表彰

- 施設管理 馬場崎和義
- 理学療法士 渡辺 裕一
- 勤続二十五年表彰
- 理学療法士 斉藤 直美
- 作業療法士 小泉たみか

- 看護師 松尾 里糸
- 生活支援員 中村 光一
- 生活支援員 木村 佳子
- 生活支援員 三瓶 則代

勤続二十年表彰

- 書記 岩井 秀彦
- 看護師 植田 圭子
- 准看護師 酒井 理恵
- 生活支援員 若月 育志
- ソーシャルワーカー 大川 貴子

勤続十五年表彰

- 理学療法士 角田 和司
- 看護師 望月 典子
- 生活支援員 花岡美和子

勤続十年表彰

- 医師 松田 光展
- 歯科衛生士 吉原 圭子
- 理学療法士 内田 七実
- 理学療法士 野村 ルナ
- 作業療法士 武藤 由佳
- 作業療法士 青柳 政則
- 作業療法士 齋藤 綾子
- 臨床心理士 石井 麻衣
- 看護師 竹家 直子
- 看護師 山村 智子
- 看護師 馬上的み子
- 看護師 恩田多美子
- 生活支援員 久保秋桃子
- 生活支援員 倉本 杏子
- 生活支援員 鈴木 徹
- 生活支援員 山平 政昭
- ソーシャルワーカー 西村 祐子

日本重症心身障害福祉協会 全国施設協議会に参加して

看護科長 八代 博子

平成二十六年五月十五日から二日間、鹿児島市で日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会開催されました。全国から百二十一施設から、施設長、事務（局・部）長及び看護部長（総看護師長）が三百六十七名が参加しました。

最初の行政説明では、

- ①障害保健福祉施策の動向について、日本重症心身障害福祉協会より、
 - ②新生 公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会をめぐっての講演がありました。
- その後は、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会「機構改革の一年」をテーマに協議会、各委員会より報告されました。
- ③日本重症心身障害福祉協会の最近一年間の動向
 - ④平成二十六年診療報酬改定の基本方針のポイント。

今後の研修会の開催について

- ⑤公益社団法人として協会加盟法人の施設職員以外からの参加も可能にする
- ⑥これまでの研修会において、看護管理研修会と施設管理研修会は、看護管理研究会と施設管理研究会に名称変更し、継続すると説明がありました。
- ⑦人材育成・研修委員会専門看護師研修部会は主な経過・活動を報告し、日本

重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師の認定教育機関の進捗状況と認定教育機関における現時点での成果・メリット、認定教育機関における現在の問題点・課題。

- ⑧認定審査委員会からは、これまでに認定教育機関が全国に八機関と増加し、受講者が三百五十六名となりました。
- ⑨第三回認定審査の結果は申請者八十六名中、合格者七十二名と保留二名でした。

協議会終了後は、施設見学として「やまびこ医療福祉センター」へ伺い、施設内は廊下の幅が広く、窓も大きく解放感があり、浴室は全て温泉でした。また、離島などから面会に来られる家族のために宿泊室も用意されていました。この部屋は、台風などの自然災害時に職員の宿泊室にも利用しているそうです。

外来入口側の地域相談室には、相談支援員、訪問看護師、訪問リハスタッフがあり、当院の地域支援にも参考になると感じました。

今回の日本重症心身障害福祉協会全国施設長協議会に参加して、今後の診療報酬の改定、二〇二五年問題等、当院を取り巻く状況は更に厳しくなり、この状況を乗り越えるためには、職員一人一人が十分に力を発揮し、互いに協力し取り組む組織に成長する必要があると改めて認識できました。まずは、看護科の職員が十分に力を発揮できるように教育体制を整備していきます。

全国肢体不自由児施設 施設長・事務長会議の開催

総務部長 吉田 廣通

平成二十六年六月十二日（木）～十三日（金）の二日間の日程で東京都内のホテル椿山荘東京において、担当施設は板橋区にある心身障害児医療療育センターが主催して開催されました。

今年度の議題は「児童福祉法改正後の肢体不自由児療育」～温故知新・新たな旅立ち～で行われました。

一日目の午前中は、
①全国肢体不自由児施設事務長、民営施設の集い。公営施設の集い、運営協議会総会が行われました。

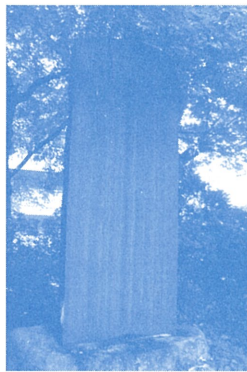
午後から初めに厚生労働省の行政説明があり、その後、四人のシンポジストから以下の発言がありました。

- ①肢体不自由児施設の歴史と今日的課題
- ②肢体不自由児とは～これまでの取り組みと今後の在り方～
- ③肢体不自由児の療育
- ④児童発達支援センターからの立場

今年度の会議テーマ「温故知新・新たな旅立ち」から、主催施設の心身障害児医療療育センター（整肢療護園）の初代理事長注1高木憲次先生没後、五十年を経て、これまでの肢体不自由児施設の歴史を振り返るとともに、児童福祉法改正後の肢体不自由児施設の今後について、多くの発言がありました。

注1 高木 憲次（たかぎ けんじ）先生

（明治二十二年生―昭和三十八年没）整形外科医。東京帝国大学教授、後に日本医科大学教授を歴任し、日本の肢体不自由児教育の創始者といわれ、日本の「肢体不自由児の父」と呼ばれている。「夢の楽園療育所」を提唱し、日本で初めて「肢体不自由児調査」という根拠に基づいて肢体不自由養護施設が日本に必要であると説き、日本で最初の肢体不自由療育施設である板橋に「整肢療護園」を設立後、初代の理事長に就任した。その後、初代の理事長に就任した。その後、初代の理事長に就任した。その後、初代の理事長に就任した。



注2 高木憲次先生・墓碑

右の写真は、心身障害児医療療育センター内にある高木憲次先生の墓碑であり、碑文は以下のとおりである。「たとえ肢体に不自由なところもあるも、次の社会を担って我邦の将来を決しなければならぬ児童たちに、曇らない魂と希望をもたせ、その天稟をのびさせなければならぬ。そこには児童を一人格として尊重しながら、先ず不自由な箇所の克服につとめ、その個性と能力に応じて育成し、以って彼等が将来自主的に社会の一員として責任を果たすことが出来るように、吾人は全力を傾尽しなければならぬ。」



社会福祉法人
鶴風会

後援会だより

医師 山本みどり

半世紀前、先輩の諸先生方が、開設され、今年五十周年を迎える東京小児療育病院には、日本女医会千葉支部及び東邦会千葉支部の皆様と共に見学させていただきました。

千葉からは遠いので、二度ともバスを仕立ててまいりました。施設の職員の方々が、明るく笑顔が絶えないことに驚き、言葉を交わせない入所者の方々と、見事にコミュニケーションをとっていることに敬意を覚えました。

十二月のチャリティ・コンサート「オルフェの会」には、毎年参加して、施設の状態などの報告をきいておりますが、昨今の社会情勢からしても施設の運営は今後とも厳しいことが察せられます。

これまで役員として活躍して下さっている方々の多くは、私同様高齢の域に達していらっしゃるのですが、昨年は若い方も加わって、徐々に世代交代が進んでいることは、嬉しく、頼もしく思っています。

チャリティーコンサート
～オルフェの会～

とき 平成26年12月7日(日)
会場 11:30
開宴 12:00
ところ 新高輪プリンスホテル
出演 アンサンブル・ブルーローズ
会費 25,000円

お問い合わせ
総務部 TEL 042-561-2521

チャリティーバザーのお知らせ

開催日 平成26年10月19日(日)
11:00~15:00
会場 東京小児療育病院院庭

チャリティーバザーでは、10月中旬までご寄贈品を受け付けております。ご協力お願いいたします。イベント・作品展・模擬店など企画しております。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

お問い合わせ
総務部 TEL 042-561-2521

平成25年度 社会福祉法人 鶴風会の決算報告

社会福祉法人 鶴風会
【資金収支計算書】

区 分	予算	決算	差異
事業活動収支			
経常活動収入計(1)	4,045,605	4,092,800	△ 47,195
経常活動支出計(2)	3,786,465	3,776,217	10,248
経常活動資金収支差額(3) = (1)-(2)	259,140	316,583	△ 57,443
施設整備等収支			
施設整備等収入(4)	750	5,063	△ 4,313
施設整備等支出(5)	100,213	98,246	1,967
施設整備等資金収支差額(6) = (4)-(5)	△ 99,463	△ 93,183	△ 6,280
財務活動収支			
財務活動収入(7)	48,295	48,249	46
財務活動支出(8)	171,590	171,506	84
財務活動資金収支差額(9) = (7)-(8)	△ 123,295	△ 123,257	△ 38
予備費(10)	36,382	0	36,382
当期資金収支差額(11) = (3)+(6)+(9)-(10)	0	100,143	△ 100,143

【事業活動収支計算書】

区 分	本年度決算	前年度決算	増減
事業活動収支			
事業活動収入計(1)	4,736,166	4,642,012	94,154
事業活動支出計(2)	4,563,493	4,446,461	117,032
事業活動収支差額(3) = (1)-(2)	172,673	195,551	△ 22,878
事業活動外収支			
事業活動外収入計(4)	5,678	7,773	△ 2,095
事業活動外支出計(5)	6,318	8,594	△ 2,276
事業活動外収支差額(6) = (4)-(5)	△ 640	△ 821	181
特別収支			
特別収入計(7)	5,655	21,800	△ 16,145
特別支出計(8)	79,621	27,173	52,448
特別収支差額(9) = (7)-(8)	△ 73,966	△ 5,373	△ 68,593
当期活動収支差額(10) = (3)+(6)+(9)	98,067	189,357	△ 91,290

【貸借対照表】

区 分	平成25年度末
資産の部	
流動資産(1)	1,802,965
固定資産(2) = (3)+(4)	4,093,777
基本財産(3)	2,651,743
その他の固定資産(4)	1,442,034
資産の部合計(5) = (1)+(2)	5,896,742
負債の部	
流動負債(6)	448,534
固定負債(7)	1,327,519
負債の部合計(8) = (6)+(7)	1,776,053
純資産の部	
基本金(9)	1,705,794
国庫補助金等特別積立金(10)	801,559
その他の積立金(11)	341,779
次期繰越活動収支差額(12)	1,271,516
純資産の部合計(13) = (9)+(10)+(11)+(12)	4,120,648
負債及び純資産の部合計(14) = (8)+(13)	5,896,701

※千円未満切捨て

鶴風会後援会へ(寄付者)芳名

平成25年12月〜平成26年5月

184名(五十音順・敬称略)

- 青木りう子・浅川 恭行・朝川 孝幸
浅見 信哉・蘆立 かつ・足高 毅
足立 嘉子・阿部 正和・安部 良治
新井 恒子・石川 至・石北 壽子
伊地知直樹・石原 斌・伊藤 圭子
伊藤 治男・伊藤 正俊・伊藤 元博
稲垣 登穂・猪俣賢一郎・上野 洋子
白井登世子・宇多 陽子・梅田 正法
梅田 嘉明・海老根東雄・大関 忍
大塚 慶子・大西 清・岡田 研吉
沖野 佳子・奥住 一雄・小原 明
小原 桂子・小原 該一・柘原 宏久
勝見 千明・加藤 葉子・金森 勝士
金子 晴生・金子稜威雄・釜范 登志
唐澤 重徳・川島フジ子・河津 緑
菅野 壽子・木内 徴子・菊池 信彦
菊池 洋子・鬼頭 秀明・楠山 一男
久保 初美・久保 博・倉根 理一
黒木 貴夫・黒瀬 嘉幸・月花 亮
小泉 美子・小竹原安見・小竹原良雄
小林 一雄・小林純二郎・小林登喜子
西條 公勝・齊藤 眞一・坂井 香織
先山 隆司・佐々木徹郎・佐藤 中
佐藤 重雄・塩野 則次・鹿島田忠史
繁田裕美子・柴 昌徳・志鳥眞理子
島田 敏雄・嶋田 寛子・島津和貴男
島野 光・清水 一輝・清水 友里
白石 芳子・杉 薫・杉本 寛子
杉本 光以・杉山 卓哉・鈴木カツ子

- 鈴木 茂・鈴木 秀明・炭山 朋子
炭山 嘉伸・千 哲三・高橋 啓
武居 正郎・竹内 忍・武田 朋子
竹中希久夫・田辺 巖・谷藤 龍正
田原 久子・塚越 実・月本 一郎
月本 伸子・豊嶋 穆・長岡 貞雄
中里恵美子・中里 良・長澤 貞継
中島 桂子・中谷 尚登・中野 重徳
中村 映子・中村志津子・中村 友美
中村 豊・並木 温・西井 華子
西宮 常代・二宮 文乃・能谷 正雄
野口ケイ子・野口 隆敏・能戸 保光
野村 直子・橋口 玲子・早川 浩市
林 晴男・林 佳子・早原 千鶴
原田 孝・原田千鶴子・原田 則雄
原田裕美子・原山 国秀・樋口志津子
土方 淳・日根野妙子・平田 徹
平野 徹・藤田よし江・藤牧 賢治
布施 正博・星 北斗・星田 宏
牧 昭夫・牧 三樹子・馬嶋 順子
増田 和人・松岡 玉枝・松島 英乃
松原 龍弘・丸山 和子・美島 利通
水落 笙子・水野 孝子・水野 惇子
宮川千鶴子・三宅 三・宮崎 和子
向山 和代・向山 徳子・向山 秀樹
村井 昌允・村川 公一・村川世津子
茂木 瑞恵・森 克彦・森 紘子
盛川 洋一・柳川 悦子・山口 美穂
山崎 公子・山下 育子・山下 香澄
山田 輝代・山村 憲・吉田 計夫
吉見 梓・米谷もりの・若江恵利子
若江幸三良・吉澤 熙・山本 泰久
桜蔭学園・晁桜会

社会福祉法人鶴風会(寄付者)芳名(法人団体個人)

平成25年12月〜平成26年5月

42名(五十音順・敬称略)

- 阿部美代子・新井 雅之・石田 勇
板垣 祝夫・岩本 敦子・江本 秋月
大塚 周二・大場 幸延・金澤 昭
上岡 謙夫・上岡 正子・菊地 由美
齊藤 雅彦・齊藤 若枝・佐藤 明子
佐藤 宣・佐久田キク子・清水美津子
鈴木 康之・瀬野 國男・高橋 孝彦
中里由理枝・濱中知恵子・番 貞輔
福岡 憲二・前畑 安宏・眞瀬きよみ
松尾 賢二・松本 誓子・茂木 瑞恵
守田 洋・山田耕一郎・吉川 芳登
吉永 久子・高橋 孝彦・舟橋満寿子
(株)エクセルサービス・(株)コイワイ
八王子建物管理(株)
特定非営理法人 わらべ
東京小児みどり父母の会
後援会

五十周年記念事業募金(寄付者)芳名

平成25年12月〜平成26年5月

27名(五十音順・敬称略)

- 石田 勇・大西 一禎・岡野 平八
岡松 眞二・勝又 太・上岡 正子
川名 洋美・小嶋 伸江・佐久田正義
迫田 慶吾・島内 佐恵・染谷 淳司
染谷 昌美・竹内 忍・武田 和実
田村 和子・寺島 映行・苗村 尚江
奈須 康子・萩原 稔・本間 利江

- 山谷 敏男・山本 陽菜・吉永 久子
(有)石沢工業所・(有)クリーンワーク
村山特別支援学校PTA

編集後記

本誌P6日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会で鹿児島県の施設見学に訪れた「やまびこ医療福祉センター」の屋上からは噴火している桜島が一望できるそうです。あまり知られていませんが、この桜島を夜に訪れると、ものすごい景色を見られます。



桜島 火山噴火と火山雷

夜の噴火口を見に行く観光ツアーがあり、活発な活動を続ける昭和火口を望むポイントで桜島の爆発を待ちます。火口は水蒸気を上げたり、ゴオオと音を立てながら火映現象を見せてくれたり、かと思えば静かに黙り込んだり・・・刻々と様子が変わるため、見ていて飽きることはありません。爆発が起これば、火口や山肌は赤く染まり、空には火山雷が走り、大きな爆発音が響きわたるそうです。目の前で繰り広げられる地球の営み。このような景色が日常的にみられるのは、桜島だけです。

編集委員会